

2021子宮頸がん予防啓発プロジェクト 趣意書

近年子宮頸がんは、ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が原因であることが周知され、検診によって予防できるがんと言われています。しかし、日本では子宮頸がん検診受診率は他の先進諸国に比べて約42%と極めて低率です。特にこれから子どもを産む若い世代（20～30歳代）に子宮頸がんが急増しているにもかかわらず、その検診受診率が20代では約26%と低いことまた子宮頸がんワクチンの接種率も依然と低いままであるということは深刻な問題です。

私たち細胞検査士は、日ごろ顕微鏡でがん細胞を発見するという第一線の現場で働いています。長野県では長野県細胞検査士会（会員総数150名）が中心となり子宮頸がんについてより正しく知ってもらい、気軽に検診を受けていただけるようにとの思いから賛同してくださる団体や個人の方々と協力して2011年より子宮頸がん予防啓発イベントを毎年開催してきました。

昨年第10回「愛は子宮を救う」では新型コロナ禍でもできる形を模索し「パネルディスカッションの動画配信」と、「子宮頸がん予防啓発資料の県内中学2年生全員への配布」を行いました。その活動が新聞記事として掲載され長野県内はもちろん、県外の大学や小児科医会からさらには関東圏の個人からの問い合わせなど大きな反響がありました。また、啓発冊子を親子で読んだことでワクチンについて考え接種するきっかけになったという報告や冊子のマンガやイラストが多く生徒たちも興味をもって手にしやすいという感想も寄せられました。

日々がんに関わる仕事をしている団体として、子宮頸がんがHPVの感染が原因であることや、予防には検診やHPVワクチンが重要なことを伝えていく責任があると考えます。それにより子宮頸がんて苦しむ若い女性が一人でも少なくなるよう活動していきたいと思えます。

また、このような啓発活動は継続性も重要と考えていますので、イベント開催のみならず、年間を通じた「子宮頸がん予防啓発プロジェクト」として活動を行っております。どうかこの活動内容をご理解いただき、ご支援ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年4月1日

長野県細胞検査士会会長 小林 幸弘

「愛は子宮を救う」実行委員会

実行委員長：中村恵美子

JA長野厚生連南長野医療センター
篠ノ井総合病院 臨床検査科

TEL: 026-292-2261

FAX: 026-293-0025

E-mail : e_hanamame@yahoo.co.jp

渉外担当：荻野智由

長野赤十字病院 病理部

TEL: 026-226-4131

FAX: 026-226-4690

E-mail : ogino-tom@nagano-med.jrc.or.jp